

■野辺事務局長

島前の方が悪天候で今日の会議に出席出来ないことと延期は難しいので本日開催にさせていただいたことの説明。(海士より 2 名参加)

■池田会長あいさつ

隠岐ユネスコ世界ジオパークが再認定されたことについて。

■野辺事務局長

本日の参加会員を確認。会員 4 5 名の内委任状含め 4 4 名の参加により総会成立。

(池田会長議長着任)

■池田議長

隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定について事務局に説明依頼。

■野辺事務局長

隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定について結果通知に時間がかかったことの説明。

審査内容、結果の説明。(推奨事項 8 項目など)

審査結果に伴う改善方針の説明。

■池田議長

質問有無の確認。

■斎藤一志(島後とぎの会)

改善計画について、(指摘事項は)日本の現状にそぐわないことが指摘されている。

警告看板について、隠岐島内だと(設置が)なかなか難しいことだと思うが、スムーズに行くのか。

警告看板を建てることで、その場所に珍しいものがあることを明らかにしてしまうのではないか。

学校教育、社会教育でジオを学ぶということだが、日本の教育が地学を教えようとしなない点について。

質問は以上、もう一つ意見として JGN、GGN に貢献するのは良いことだが、こちらかの要望も伝えて欲しい。

10 年ほどジオパーク活動をしてきたが全然普及出来てないと感じる。

ジオパークと言う名前が悪いと思う。ジオパークという名前を日本人に馴染みがある名前に変えて活動するべきではないか。例えば「地球遺産」という名前。

中国は地質公園という名前を使っている。

■池田議長

今の3つの質問、1つの意見について事務局回答依頼。

■野辺事務局長

まず警告看板について、現在ジオパーク看板は100枚ほど各地に置いている。そこに警告は入れてあるが、中国の場合は大きく取ってはいけないと掲示している。その認識の違いで（審査員から）意見が出たと思う。景観のこともあるので、これについては審査員の方をもう一度隠岐に呼んで話し合いたいと思う。

希少種の場所を教えるのではないかと、という点についてはまさしくそのとおりで、そこら辺を含めて審査員と話し合いたいと思う。

また、地学教育についても再認定審査の時は説明不足だと感じている。学校教育の中で環境省協力の下、環境教育プログラムを使って勉強していると説明したが、環境省イコール自然植物というイメージを持たれたかもしれないが、実際は地学も勉強している。

これについても審査員に細かく説明していきたい。

最後に知名度の向上についてもまさしくそのとおりで、今JGNとしても旅行代理店と協力して知名度の向上について取り組んでいるが、ネーミングについて分かりにくいなど意見が上がっている。これも今後提案していきたいと思う。英語はジオパークと言う名前を使うが、日本語については考えていく必要がある。

■池田議長

質問の有無の確認。

次の協議事項へ移行。

■野辺事務局長

環境省が隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会の会員になることの説明。

■水落管理官挨拶

国立公園の説明など

■池田議長

平成29年度事業報告及び平成29年度決算見込みについて事務局説明依頼。

■野辺事務局長

平成29年度事業報告については総括で行う。細かい報告については資料を見ていただきたい。

(資料2-1、2-2)

(GGN/JGN 関係運営費)

世界再認定審査についての説明、姉妹提携事業についての説明（香港GP、中国GPなど）、JGC委員に池田町長が任命されることの説明。

(事業費)

中核・拠点施設整備についての説明。

ビジターセンターの管理についての説明。

ジオパーク学習の説明。

認定ガイド、サポーター養成講座についての説明。

島民意識調査の説明。

部会運営について、今年は再認定現地審査対策に重点を置いていたが、今後は部会員を対象とした研修を実施し、担い手育成に取り組みたい。

英語キャンプについての説明

(情報発信事業)

マップ、リーフレット、副読本の作成についての説明。

紙芝居作成についての説明。

IT を活用した情報発信の説明。(ホームページのリニューアル、音声ガイドシステム、Google との提携について)

のぼり旗、横断幕の作成についての説明。

(企画・広報宣伝事業)

長辺映像作成(現在作成中の「大地の成り立ち編」)についての説明。

メディアの活用(新聞広告、広報誌への掲載)を行って来たが、効果測定が困難なため、平成30年以降は新聞、雑誌への記事紹介は削減する。

島外でのPR(TBS ラジオイベント、アイランダーへの参加、アクアス企画展)を行ったが、効果測定困難である。しかしながら認知度向上には効果があったので、引き続きPR事業を実施する。

隠岐ジオパークフェスタの説明。

ジオパーク講座の説明。

ジオパークシンポジウムの説明。

新ツアー造成について、丸の内の企業社員を対象とした「丸の内朝大学」の隠岐島版を島前で実施、インスタグラムによる情報発信につなげるツアーの開催、モンベルと提携しシーカヤックツアーをモンベルホームページに掲載。

ジオ関連商品の開発について、パッケージ3件認定商品2件の採択。

(調査研究事業)

ジオサイト看板の更新、調査研究計画書の作成、研究活動助成、研究論文募集についての説明。

平成29年度収入支出決算見込についての説明。(資料3-1)

■池田議長

質問有無の確認

■石田茂春（隠岐の島町議長）

決算見込の文字が小さくて見えない。もうちょっと大きくすることは出来ないか。

■野辺事務局長

次回から A3 サイズに拡大する。

■斎藤一志（島後とぎの会）

JGC が新体制になるということだが、当初は地質学者ばかりだったが、それが改善されていっているのは野辺事務局長の努力の賜物だと感じる。色んな専門家が入ってくるということだが、この部分はこういう人が入ってくるという情報があったらいただきたい。

西郷港にできる新しいビジターセンターについて、今建設が計画されている場所について、高速船からの導線は良いが、フェリーからの導線は悪いように感じる。この辺はどういうふうになるのか。

■池田議長

2つの質問について事務局回答依頼。

■野辺事務局長

JGC 新体制の委員についてだが、名簿が来ているので紹介する。

（委員の紹介）

また、ビジターセンターの導線についてだが添付資料 2 の方に今の導線が示してある。

これについては今後検討会をしながら進めていきたい。今現在のフェリーターミナルの展示から中核施設へと誘導する形を取りたい。

■斎藤一志（島後とぎの会）

ツアーの造成について、国内外国含めて個人の旅行客が増えているが隠岐には個人客向けの対応が出来ていない。これは推進協議会がやることではないと思うが、路線バスのダイヤを含めて個人旅行客向けにどのような対応を取っていくのか伺いたい。

■池田議長

それは平成 30 年度事業の方で協議したい。

他に質問有無の確認。

平成 29 年度事業報告、平成 29 年度決算についての承認を求める。

（承認）

続いて平成 30 年度事業計画、予算案について事務局に説明依頼。

■野辺事務局長（資料4-1）

（協議会事務局運営費）

事務局体制について、平成30年より隠岐の島町から派遣1人、島前3町村からの派遣を1人とし、減となった1人については協議会雇用として1人採用する。

細かい事務分掌については資料4-2を参照。

（GGN/JGN 関係運営費）

5月26日～31日の期間、アジア太平洋地域ユネスコ国内委員会ジオパーク研修の開催、香港ジオパークとの交流事業、GGN 国際会議への出席、JGN 全国大会、全国研修会への出席についての説明。

（事業費）

中核施設について、部会員の研修について、ジオパーク学習について、高等学校の連携について、英語キャンプについて、有償ガイドの養成についての説明。

（情報発信事業）

リーフレット、マップの作成について、マップは中国語版を作成する。YouTube を活用し動画映像を作成すること、紙芝居について「隠岐の奇岩編」を作成すること、ジオパーク新聞を発行すること、全体構想を改訂すること、ホームページにポーランド語を追加すること、のぼり旗・横断幕について規模を縮小し、松江駅ー七類港・境港の連絡バス2台のみラッピングバス広告を行うことについての説明。

（企画・広報宣伝事業）

じゃらんなどの旅行雑誌への記事掲載について負担すること、島外での PR 事業として関東圏域及び広島・岡山からの誘客を目的としたイベントへの参加、ジオパーク講座を米子、岡山で行うこと、ジオパークシンポジウムを西ノ島町で開催すること、新ツアー造成事業としてレインボーチャーター事業について、モンベルとの提携について、ジオ関連商品開発について3件採択予定であること、ジオサイト看板の更新について、調査研究計画を策定すること、研究活動助成について平成30年度よりテーマ型の研究活動助成を行うことの説明。

平成30年度収入支出予算（案）の説明（資料5-1）

■池田議長

質問有無の確認

■斎藤一志（島後とぎの会）

先ほど質問した件について（個人旅行者への対応）

■野辺事務局長

それについては推進協議会が主体でやるのではなく、観光協会や各町村の観光課との連携の中でやっ

ていきたい。また、外国人観光客は一箇所をじっくり見るという旅行形態であることから、推進協議会としては看板整備などのプログラム作りをやっていきたいが、ターゲットなる人や国を含めた戦略については観光協会と協力してやっていきたい。

■池田議長

観光協会に意見を求める。

■角橋隼人（隠岐観光協会）

ご指摘のとおり全国的に個人の観光客が増えているが、隠岐は未だに旗持ちと言う添乗員が付いたツアーが見受けられる。しかしデータとして個人客8割、団体2割となっている。

隠岐観光協会としても団体よりは個人対応に重点を置いた事業方針を立てている。しかし、どうやって個人客を楽しんでもらえるかなどについては各町村事情の違いや、やり方の違いもあって苦労している。その中で西ノ島町と海士町については定期観光バス、定期遊覧船等あって、まだレンタカーやタクシー以外の交通手段があるが、隠岐の島町と知夫村に関しては個人観光客がゆっくり見られない現状にある。この辺りは各町村の観光課、観光協会と連携して協議して行きたい。一つの取り組みとして、隠岐の島町でやっている「ジオバス」、限定的ではあるが一つやり方としてある。ダイヤを変えるのは難しいが、できる限りやっていきたい。

■斎藤一志（島後とぎの会）

もう一つ、昨年10月に神社マップを推進協議会で作ったが、これは大変良いものなのでもっと宣伝して欲しい。

■野辺事務局長

神社マップについては評判が良い。この前神社マップを使った神社ツアーも行った。

メディアの中で取り上げてもらうように働きかけをしていきたい。

■池田議長

質問有無の確認

■室崎隠岐支庁長

中核施設について2つ要望がある。1つは今後有識者を交えた意見交換会、ワークショップで内容を検討していくとのことだが、観光客の目線で魅せ方に工夫して欲しい。2つ目は情報の出し方が少ないように感じる。今後意見交換会やワークショップをやる時に隠岐4島民に知らせることが大事だと思う。

■池田議長

中核施設について2点の要望について事務局に回答を求める。

■野辺事務局長

中核施設の展示についてアドバイザーとなる有識者だが、地質や植物、歴史文化の専門家はもちろんのこと、博物館の学芸員も交えて魅せ方をどうするのかを協議していく。

また、情報発信についてだが、4回計画しているワークショップの成果を随時全戸配布などの方法で周知していく。また、ジオパーク新聞でも周知していく。

■室崎隠岐支庁町

島前の人も含め情報を出して行かないといけないと思う。お金や手間はかかるが大事なことだと思う。

■池田議長

隠岐の島町と（推進協議会）の協議の中でやってほしい。

平成30年度の事業計画、平成30年度の予算案について承認を求める。

（承認）

続いて規約の一部改正（案）について

■地的企画員（資料6-2）

規約の一部改正、総会での承認が必要なのは規約だけとし、その他規則については幹事会での承認事項とすること）について説明。

■野辺事務局長

法人化するにあたってのその他規定整備を行っていることの追加説明。

■池田議長

規定について承認を求める。

（承認）

総会締